



# 日本人とお風呂

## 風呂文化について考える

人間にとって、普遍的なテーマである風呂を取り上げ、日本人の風呂文化について学ぶ。また、日本人の「包む」文化についても学ぶ。

日本人は外国と異なる入浴習慣をもっていることを認識させる。また、地理科と協力し、気候・風土・火山などにふれ、風呂がいかに日本人と深く結びついているかを生徒に理解させる。

文化理解と言語学習を結びつけ、風呂の種類や、風呂にまつわる日本語、構文などを勉強し、それに基づいた会話の練習、場面に応じたコミュニケーション能力を養う。

さらに日本人の風呂についての話し合いを通じて、日本人の「風呂文化」に対する理解を深め、日本と中国の風呂の共通点を見いだす。



劉淑艷  
Liu Shuyan

長春市第八中学校  
(中華人民共和国、長春市)

### 目的

#### 言語面の目的

「風呂」の種類とさまざまな言い方を習得する。  
構文「～といわれている」「～たがる」を習得する。

学習する機能	学習する表現	学習する語彙
❖ 「風呂」についての情報交換を行う	❖ 汗を流す ❖ ～といわれている ❖ ～たがる	❖ 風呂敷、浴衣、浴槽、水浴、サウナ、シャワー、つかる

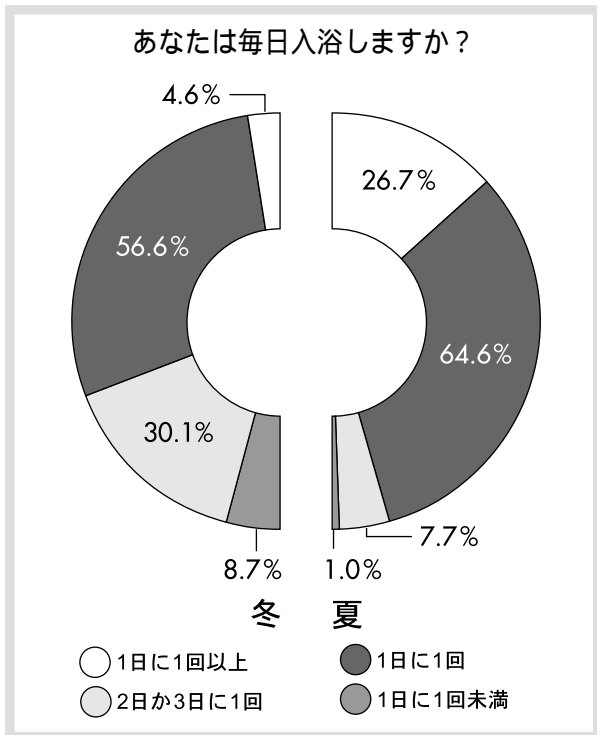
#### 文化面の目的

日本人の入浴習慣を認識する。  
自国の風呂を再認識する。  
日本と中国の風呂の共通点を考える。

## LESSON PLAN

### 用意するもの

- 風呂敷
- 日本式の風呂の絵\*
- 浴衣
- げた
- 『中日交流標準日本語』(人民教育出版社)
- アンケート調査の結果\*



### 授業の進め方

#### 事前学習

地理科のテキストを読んで、気候・風土、季節風、火山などが日本人の生活に与えた影響を考える。(参考書『中日交流標準日本語』)

資料を読み、風呂と日本人の生活のつながりを理解する。首都の東京で毎日、毎週風呂に入る日本人の数などについて調べた新聞社のアンケート調査の結果を配布する。

#### 1. 導入(5分)

教師が風呂敷を持って、「何ですか」「どんな時に使

いますか」と問いかけ、生徒の注意をひく。そして、書き方や、使い道および名称の由来を簡単に説明して、授業のテーマを導入する。

#### 2. 日本と中国の風呂の比較(10分)

日本人の生活における風呂の役割を学び、絵を見ながら日本人の風呂の一般的な入り方とその機能について説明し、日本と中国の風呂の違いを比較する。

#### 3. 話し合い(3分)

気候・風土、火山などに触れ、日本人独特の風呂の入り方について討論する。

#### 4. 単語の練習(2分)

「風呂」は中国語の風呂と混同しやすいので書き方を練習する。そして、生徒に文字における日本と中国のつながりに気づかせる。

#### 5. 風呂に関連した語句を教える(10分)

日本の風呂は銭湯、水浴、サウナ、シャワーなどさまざまな言い方や種類があることを教え、また、汗を流す、つかる、浴槽、浴衣などの風呂にまつわる日本語を教える。とくに浴衣の説明をしたあと、実際に1人の生徒に浴衣を着せ、素足にげたをはかせて音楽に合わせて盆踊りのまねをさせる(生徒たちは笑い、興味をもつようになる)。

#### 6. 会話練習(15分)

構文「～といわれている」「～たがる」を説明し、5で習った語句を使って、風呂のテーマをめぐる会話文を作り、実際に会話の練習をさせる。

#### 7. 話し合い

日本人の風呂やその理解について話し合いをさせ、日本と中国の風呂の共通点を発見させる。

### 生徒の反応

風呂敷はマフラーだと思った。

日本人の浴衣は使い道が広いね。

以前は日本のテレビドラマなどを見る時、なぜ風呂に入る場面が多いのかと疑問に思っていたが、これでわかった。

## 文化理解と外国語学習について

### 国際化に必要な外国語教育と文化理解

外国語教育と文化理解の関係といえば、一般的に外国語はコミュニケーションの道具であり、外国語教育を通じて異文化を理解すると考えられているが、実際にはこれまでの外国語教育では文化より言語が強調されていた。特に中高校における外国語教育では、ほとんどがことばや文法だけの学習で、大学入試のための学習であった。しかし、最近は文化理解が注目されている。文化は「沈黙のことば」と言う人もいる。よく考えてみれば、文化理解は確かに必要であり、無視してはいけない。

まず、外国語教育の中で、文化的側面を取り上げるのは、学習者の学習意欲を高め、外国語学習にとって効果が大いからである。私自身これまでの日本語の授業でそういう経験をしている。例えば、日本語の「敬語」を教えたとき、「日本の社会は細かなタテ関係によって分けられる。同じ実力を持つ会社員でも年齢、入社年次、勤務期間が長いか短いかによって序列ができてくる。だから、日本人は自分が序列のどの位置にいるかを常に意識して行動している。ことばに尊敬語や謙譲語が存在するのもそのためである」と説明すると、生徒は授業に身を入れるようになり、「だから日本の学校では先輩はときどき後輩に威張るのだ」「でも日本人は自己を殺すと思う」など意見を出したりする。こうして、興味を寄せながら「敬語」の使い方を覚えた。このとき教師として、文化理解の必要性をしみじみ感じたものだ。

また、外国語はコミュニケーションの道具であるといわれているが、実際に自然なコミュニケーションをとるのは決して容易なことではない。それぞれ異なる文化的背景をもつ話し方や微妙なニュアンスがあるからである。そのため外国語で真のコミュニケーションを図る

には構文や文法を知っているだけでは不十分である。その言葉話す人びとの生き方、考え方、そして、生活について理解を深めなければならない。

さらに、多文化時代といわれる21世紀に直面し、国際交流が盛んになるにつれて、異なる言語、文化をもつ人びとが出会う機会はますます増えてくる。文化摩擦をできるだけ少なくするためには、まず相手の言葉、文化、歴史などを理解することが必要である。

だから、外国語教育では言語学習と文化理解を結びつけ、二つの過程を同時進行させることが一番大切である。ではどのように文化理解を図ればいいのか。

まず文化の背景にある気候・風土の影響を考えなければならないと思う。日本は、中国・朝鮮などアジアの国ぐにの影響を受けている一方、生活や風俗習慣などにおいて外国と違うところもある。例えば、米を主食としている、木造の家に住んでいる、風呂を好むなど、これはみな日本の土地柄や、気候によっている。また日本人があいさつのことばや手紙のはじめによく天気と関係のあることばを使うのも気候の影響と考えられる。

このように一国の文化は土地によってそれぞれ特徴が異なる。そればかりでなく、同じ国、同じ時代においても人の性格によって少しずつ違っている。

しかし、文化は相違点があってもある程度共通している。特に国際化時代に向かっている今日、世界の各国が自国の文化を継承しながらもグローバルな観点からいえば異文化の影響を受けている。文化は「地域化」から「国際化」の道へ歩んでいる。近い将来、人間の住んでいる地球は文化摩擦のない「地球村」になるかもしれない。こういうことも外国語教育を通じて生徒に伝えたい。

### 講評

入浴後に浴衣を着て盆踊りをするというのは、学習者が好む「絵」になりやすいし、また耳や目に入りやすいだろうが、現代の日本人の生活では日常的な例とはいえない。

そういった特殊な例を追わなくとも、日本人の風呂好きを題材に気候や風土、人間関係、つき合い方といった文化事情は十分に教えることはできるし、そこからユニークな切り口の文化比較も可能になると思う。そういった細かい観察の方が1時間の授業としてはまとめやすく、言語面での関連も得やすくなるはずだ。

日本人一般の風呂好きについてだけでなく、個人の日本人に入浴習慣などについてインタビューすれば理想的な教材になると思う。

## お風呂と温泉

日本人が外国旅行から帰ってきて、まず、したいと思うことは、ゆっくりお風呂に入ることだと言われています。長い間、外国で生活している日本人も、その国の言葉で話し、その国の習慣で食事をしていても、お風呂だけは日本式のお風呂に入りたがります。ある本には、90パーセント近くの日本人がお風呂が好きだと書かれています。日本人が好きなお風呂の入り方は、浴槽にいっぱいになったお湯の中に入って、首までつかることです。体を洗うのは、浴槽の外です。ですから、お湯もあまり汚れません。このようなやり方は、世界でも珍しいと言われています。

日本の夏は、暑くて湿度も高いです。汗で体がべとべとしている時や雨に降られてぬれた時など、お風呂に入れば、さっぱりして気持ちがよくなります。また、寒い冬には、熱いお湯にしばらくつかってれば、体が暖まってきます。日本のお風呂は、疲れもとることができて、健康にとてもいいのです。では、なぜこのような習慣になったのでしょうか。

その理由の一つに火山があります。日本は、世界でも有名な火山国です。そのために温泉がいろいろな所にあります。温泉のお湯はいつでもたくさん出ていますから、好きな時に入ることができます。いつごろから日本人は、お湯につかるようになったのか、あまり知られていませんが、山の中でクマやサルが気持ちよさそうにお湯につかっているのを見て、まねをしたのではないかとされています。いくつかの温泉には、けがをしたクマやサルなどの動物たちが、お湯につかって体を治したという話が伝えられています。温泉のお湯の中には、体にとてもいい物が含まれています。ヨーロッパなどでは、温泉のお湯がよく飲まれています。日本でも温泉地に長い間泊まって、病気を治すことがよくあります。

有名な温泉地には、ホテルがたくさん立ち並び、観光地となっています。若い人にも人気があり、お風呂に入りながら自然を楽しむこともできます。

各家庭でも、温泉をまねてさまざまな薬をお湯に入れることがあります。お風呂は日本人の生活や健康と深く関係し、なくてはならないものになっています。

『全日制普通高級中学教科書日本語』第一冊(人民教育出版社)第12課から



イラスト：飯塚よし照

(The Japan Forum Newsletter No.6, pp.14-15, "A Day in the Life" から)